

英語力を 確実にアップさせる 4つのポイント

45歳以上の初心者でも30日で驚くほど上達！

英会話上達研究会

「英語を身につけたいが、時間も無いし、なかなか上達しない…」

忙しいあなたは、そうお悩みではありませんか？

国際化が加速し企業でも英語力が重視される一方、大変多くのビジネスパーソンが、このような悩みを抱えています。

どの英語教材を使い、どのように学習すれば上達するのか？多くの方が悩み、そして上達しないストレスに苦しんでいます。

私たち「英会話上達研究会」は、どのような練習法が最も効果的であるのか、その答えを【聴けて話せる英語】を専門にしておられる大学教授陣に求めました。そして今回

忙しいビジネスパーソンが、① 短期間で
② 効率よく
③ 効果を実感できる英語学習法

これをテーマに、言語学博士：御園和夫教授の理論や当会代表の経験を通じ蓄積した英会話上達のポイントをわかりやすくまとめ、“英語力を確実にアップさせる4つのポイント”として、ここに公開することといたしました。

あなたが近い将来、“英語を話せるようになる”よう、ぜひご活用ください。

英会話上達研究会

<目次>

・ 第1のポイント【原因分析】

なぜあなたは英語が話せないのか？ 学校で教えない本当の理由とは？
.....P.4

・ 第2のポイント【失敗事例】

努力しても結果が出ないのにはワケがある。英語上達のウソ・ホント。
.....P.10

・ 第3のポイント【上達方法】

これが成功する短期英語上達法だ！
短期間で英語のプロを育てる言語学博士の練習法とは？
.....P.18

・ 第4のポイント【目標達成】

成功する発想法はこれだ！
これであなたは英語を自在に操れる！
.....P.30

Rev.7 : 2016/04/22

本著作権は株式会社IQ-Strategy／英会話上達研究会にあり、本書の転売・転載・転写・コピーを含む二次利用は一切禁止されております。また本紙はノウハウ提供が目的であり、いかなる結果も読者に保証するものではありません。

第1のポイント【原因分析】

なぜあなたは英語が話せないのか？

学校で教えない本当の理由とは？

■ 1-1：間違いだらけの英語学習

あなたの英語学習、間違っていますか？

「仕事で英会話が必要！」「海外旅行や字幕無しで洋画DVDを満喫したい！」
そう思いながらも、何から手を付けていいのかわからない。長続きせず、いつまでたっても話せない。そう思われているのは、あなただけではありません。多くの方がスクールや新しい教材へ次々と英語にお金を投資しますが、結局は途中挫折。

それはあなたの努力が足りないのでしょうか？いいえ。そうではありません。今ではほこりをかぶっている教材も、やる気満々で買い込んだはずです。同僚の誘いを断り、仕事の後に駅前のスクールに通った方も多いかもしれません。あなたは今まで努力してきたはずです。それでもあなたは話せないままです。なぜでしょうか？

それは【あなたの英会話学習法が間違っている】ためです。

間違った学習法はいつまでたっても上達を実感できず、いつの日か努力は苦しみへと変わり、苦しみは諦めに変わっていきます。実は知っているようで知らない正しい学習法。多くの方が間違った学習法を、効果が無いと嘆きながら続けています。



あなたの努力が足りないのではなく、あなたの英会話学習法が間違っているとしたら…

時間の有り余る生活を送っているならば、それでも問題ありません。しかしあなたは毎日忙しいビジネスパーソンのはず。英語だけに貴重な時間を投資する余裕はありません。多忙なあなたに今必要なこと。それは理論に沿った正しい学習法で学び、効率よく英語を身につけることです。

■ 1-2 : 話せば良いとは限らない？

駅前にある有名英会話スクールに、視察で体験入学をしたことがあります。受付を済ませブースに入ると、そこにはスーツ姿の男性が1人、学生らしき女性が一人いました。チャイムとともにレッスン開始、外国人講師が生徒に先週末の行動を尋ねはじめました。

スーツ姿の男性は、恥ずかしそうに、たどたどしく答えていましたが、それと打って変わって女子学生は、「週末はテニスをして、その後友人と買い物をした」と、流暢に話し始めたのです。私が参加したのは初級クラスと聞いていたので、彼女の流暢さにビックリ！

しかし次の瞬間、とても面白いことが起こったのです。それは彼女に対し、講師がいくつか質問をした時のことでした。その女子学生、講師の言葉が聴き取れず石のように固まってしまったのです。「何を買ったの？」そんな簡単な質問でした。それでも彼女は答えられず、真っ赤になり救いの言葉をただ待つだけだったのです。

彼女に一体何が起こったのか？あとから本人に聞いたのですが、実は彼女、上手に会話を進めたいがために、事前に返答を準備してきたとのことでした。週始めは同じ質問をされることを彼女は知っていたのです。しかし彼女は自分の返答しか準備せず、相手からの反復質問を想定していなかったわけです。

実はこれ、初心者が犯す典型的なミスです。会話はコミュニケーションということをおぼわているのです。相手がいて始めてコミュニケーションが成り立つのです。一方的に言いたいことを言っても会話は成立しません。それは独り言です。

※このことから分かるように『旅行のワンポイント英会話』や『指さし英会話』といった書籍もあまり役に立ちません。いくら例文を読み上げ質問しても、相手の返答を聞き取り理解出来なければ、コミュニケーションが成立しません。

会話では、【話す】能力と同様、相手の話を【聞き】理解する能力が重要です。【聞き】取り理解できれば、極論ですが“Yes”と“No”だけでも、あなたの意思は何とか伝わります。



聞き取れば、「Yes」「No」でも返答できるはず

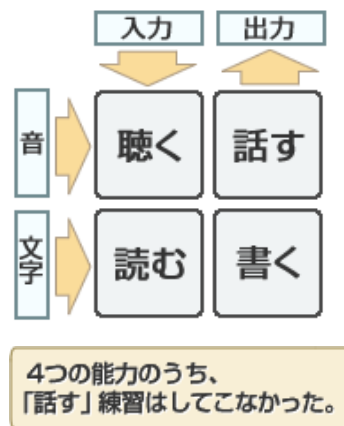
しかし相手が何を言っているのかを聞き取れなかった場合、あなたは“Yes”“No”さえも答えることができないのです。英語を話すことが目的ではないのです。英語でコミュニケーションを図ることが目的であることを忘れてはいけません。

■ 1-3 : 【読む】 【書く】 【聴く】 【話す】 の関係

英語には、『音』を使う【聴く】【話す】と『文字』を使う【読む】【書く】の4つの能力が必要です。しかし従来の日本の学校教育では、【聴く】と【話す】を教えてきませんでした。学生時代あなたが英語の勉強として

習ったこと、実践してきたことは、英文を日本語に直す作業（＝訳読）だけです。

訳読は、受験に必要な『作業』であって、英語を【聴き】【話す】こととは直接関係ありません。「英語を勉強してきたのに話せない」のではなく、「話す練習をしてこなかったから英語が話せない」だけなのです。



■ 1-4 : 聞き取れない音は話せない

英語を聞き取れなければ、絶対に英語を話すことができません。これはフランス語でも韓国語でも、そしてあなたが得意な日本語でも同じです。

相手の音声を聞き取れなければ、あなたは同じ言葉をオウム返しに言い返すことさえできないのです。聞き取れた場合しか同じ音を返すことが出来ないのです。もう一度言います。人間は聞き取れない音を、同じように発声することができません。

ですから「話す前に、まず聴く練習をする」ことが大事です。【話す】ことを考える前に、まず【聴く】ことに集中することです。

■ 1-5 : カラオケの練習法は？

好きな歌手の曲を覚え、カラオケで歌おうと思いますが、あなたならどのよう
に覚えますか？

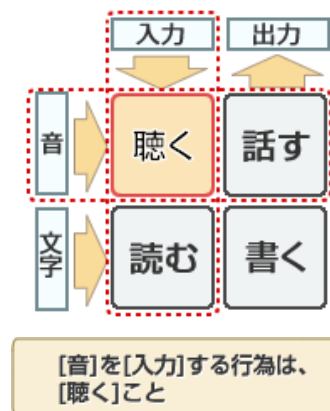
歌詞をじっくり読み暗記しますか？それとも歌詞をノートや単語帳に書き写
して覚えますか？通常はそんなことしません。まず曲を聴きリズムやメロ
ディーを覚えます。歌詞はメロディーの一部 = 『音』として覚えます。歌い
方を真似してみたりもするでしょう。

そうして耳から音をインプットしていきます。曲を聴きながら一緒に口ずさ
んでみたりもします。その後カラオケで歌うことがほとんどです。文字だけ
を暗記をしたことなどないはずです。

英語も同じです。文字だけを見て暗記しようとしても、頭にほとんど入って
きません。英語を覚えるには、カラオケ同様、『音』を頭にインプットする
ことです。歌う (=アウトプット) には、その前に音を聴くこと (=イン
プット) が絶対に必要なのと同様、英語も話す (=output) には音を聴くこ
と (=input) が必ず必要なのです。

右の図をご覧ください。

先程『音』が大切とお話しました。これが横軸に
なります。そして縦軸が入力と出力の区分です。
カラオケ同様『inputなくしてoutputはできない』



ため、入力はとても重要です。

この横軸『音』と縦軸『入力』。この二つの重要な要素が交差した部分は、 図でいうと『聴く』になります。【話す】（『音』の出力）前に【聴く】（『音』の入力）ことの重要性をご理解頂けたでしょうか。

第1のポイントのまとめ

- ・ 話せない原因は勉強法が間違っているから。
- ・ 英語を話すことが目的では無い。目的は英語でコミュニケーションを図ること。
- ・ 【読む】【書く】【聴く】【話す】の4要素があり、【聴く】【話す】は殆ど学習してこなかった。
- ・ 人間は聴き取ることの出来ない音を発声することができない。
- ・ つまり聴き取れなければ、絶対に英語を話すことができない。
- ・ 出力/output = (話す) ためには、その前に入力/input = (聴く) が必要。

第2のポイント【失敗事例】

努力しても結果が出ないのにはワケがある

英語上達のウソ・ホント

■ 2-1：英会話スクールでは英語が上達しない？

『会話はコミュニケーション』だと第一のポイントでお話ししました。コミュニケーションには必ず相手が存在し、相互に【聴いて】【話す】ことが必要です。それにもかかわらず、いまだに英会話スクールは【話す】ことだけを焦点に授業をおこなっています。その理由を、とある英会話学校の外国人マネージャーが話してくれました。

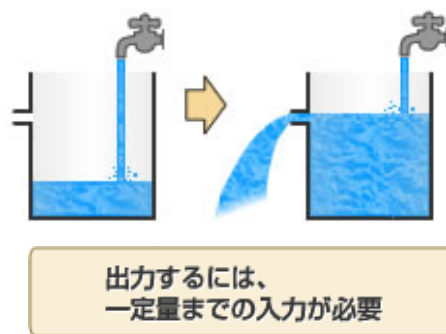
『初心者が英語上達するには【話す】時間より【聴く】時間を多くとるのが重要だ。そのほうが、はるかに早く上達する。しかしお客様はネイティブと【話す】ことを望んでいる。上達という観点からすれば効果は低いですが、ビジネスを考えると、英語を話させるしかない。なにしろお客様はネイティブと【話す】ことに価値を感じているから。』

あなたがもし英会話スクールに通った経験がおりなら、思い出してみてください。あなたはネイティブと【話す】ことに価値を感じていたのではありませんか？ブロードの髪的女性講師や、青い瞳のネイティブと会話することに感じる価値。英語初心者のあなたにとっての英会話スクールは、ただそれだけの存在でしかありません。

その証拠に、あなたの周りで英会話スクールに通い英語が上達した初心者は何人いますか？プライベートレッスンで年間250万円を投資しても、ほとんどの人が話せないまま終わるのです。

※40分=8400円 1回2レッスン、週3日受講=年間288レッスン×8400円=2,419,200円+教科書代で計算

スクールは、ある程度話せる中・上級者が通い、会話力を発展させるためのアウトプット練習をするには良い場所です。しかし今はインプットを優先すべき初心者のあなたが行く場所ではありません。



先ほどのマネージャーのセリフ、生徒と呼ばずお客様と呼んでいます。スクールにとっては、education（教育）ではなくbusiness（商売）なのです。あなたはstudent（生徒）ではなくcustomer（お客）なのです。英会話スクールは学校ではなく、英会話ビジネスであることも忘れないでください。

■ 2-2：有名教材ほど長続きしない？

有名教材で話せるようになったという話はあまり聞いたことがありません。知名度だけで教材を選んでも、結局長続きせず、大抵は本棚の隅で埃をかぶっているはずです。「買ったのは良いが途中であきてしまった（開封したのは1巻だけ）」「頑張って勉強したものの、なかなか上達しない。」このような結果となるのは多くの方が知る事実です。

なぜ途中であきてしまうのでしょうか？

実は世の中の教材のほとんどが面白くないのです。いくら勉強だからといって、面白くもない教材に取り組むことは相当のストレスのはずです。どんなに強い目的意識があっても長続きは難しいものです。

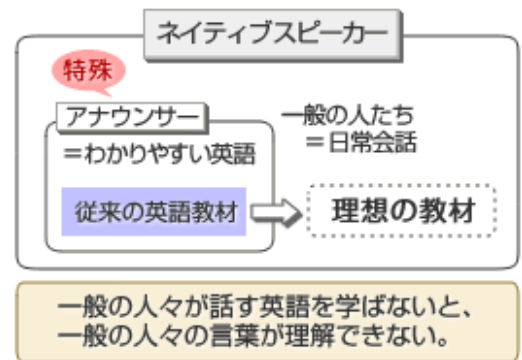
I'm Taro Suzuki. He is Ichiro Tanaka. I am taller than he. といった例文を、大人が楽しみながら取り組めるはずありません。仮にがんばって取り組んだとしても、海外旅行先で『私は彼より背が高い』と話す機会など絶対にはないはず。有名出版社が出している教材、実はこのような表現がとても多いのです。

また「テープの音声は聴き取れるのに、洋画DVDは聴き取れない。」「旅行先で出会った人たちの英語は、CDの音声よりもわかりづらい。」という経験がある方も多いはず。実は有名出版社の教材は、聴き取りやすい英語を話してくれているのです。

お手本のような英語を、アナウンサーがゆっくりと、明瞭に発音してくれるのです。

しかし通常の会話で、私たちがアナウンサーのような話し方をしないのと同様、ネイティブもアナウンサーのような話し方などしません。だからナチュラルスピードの会話が聞き取れないのです。

キャメロン・ディアスのキュートな話し方、ニコラス・ケイジの味のある



語り口調を聴いて分かるとおり、彼らの話し方はアナウンサーの話し方とは全く異なります。

有名出版社の教材は正しい英語だが、非日常の英語を使っているという事実。そこには、「ネイティブ発音は初心者には聴き取りにくいいため売れない」という背景があるのです。

■ 2-3 : 留学しても英語が話せない現実

「結局、短期留学でもしなければ話せるようにならない」と言う声も聞きます。しかしこの短期語学留学、その効果に「？」が3つくらい付きます。その最大の問題は、英語しか話せない状況に身を置けないという点にあります。

語学留学である以上、留学先は語学の専門校です。そこに通うのは英語を学びにやってきた英語の出来ない生徒たちで、仲良くなるのは同じ言葉話す者同士。当然仲間同士で話される言葉は英語ではありません。唯一彼らが話すネイティブは、担任講師だけ。このような日本と変わらぬ状況で、上達することなどありえません。

せめてアルバイトを通じて英語に触れる機会があれば良いのですが、英語を話せない日本人を雇ってくれる良心的な企業もありません。雇ってくれるのは日本食レストランがいいところです。海外出張中に息抜きに出かける日本人向けカラオケスナックには、夢破れた女子学生で溢れているという悲しい話は、商社マンの間ではあまりにも有名です。

何よりの証拠に英会話上達研究会には語学留学中の学生から、教材の申し込みが毎週のように到来するのです。彼らも帰国日までに、少しは英語が話せるようにならないと格好がつかないのかもしれませんが。

■ 2-4 : テレビの英語番組では長続きしないワケ

安く学べる代表格のテレビの英会話番組。でも意外や意外、安いと思っていたはずのテキストとCDを1年分買うと、なんと20,640円もします。2～3番組まとめて視聴するのが通常ですから、安いと思ったテキストも気づけば年間6万円以上にもなるのです。しかも頑張るのは番組が始まってから3ヶ月まで。数回放送を見逃せば、その後はすっかりテキストも開かなくなります。

広告で目にする月々数千円の英語教材も人気です。でもよく見ると48回払い！総額20万円以上にもなります。高いか安いかわからない、総額の確認が重要です。高ければそれだけ効果があるというのも幻想です。

■ 2-5 : その学習法、ホンモノですか？

CDをただ聞いているだけの学習法もあります。でも考えてみてください。例えばスワヒリ語のCDを聞いているだけで、いつかスワヒリ語が話せるようになると思いますか？何十時間聞いても理解できないのと同じように、英語をただ聞き続けているだけでは、わからないものはわからないままで終わるのです。



聞いているだけでは、
わからないものは
わからないままで終わる

■2-6：あなたは小学生に勝てるのか？

2011年より、全国の公立小学校で5年生からの英語の授業が必修化されました。これは文部科学省の【「英語が使える日本人」の育成のための行動計画の策定】の一環で、国が英語教育にいよいよ本腰を入れたことを意味しています。

さらに2020年は東京オリンピック/パラリンピックが開催されます。世界の多くの国から観客も来日することでしょう。共通語として英語が多用され、ますます英語の重要度が高まることでしょう。

このような政策を受け、小学校5年から英語を、しかも我々が学んだ文法重視ではなく、実践的英語を学びはじめたということは、今の小学5年生が、入社してくる今から11年後、社内には英語を普通に話す新入社員であふれていることも充分予想されます。今から11年後、英語が使えて当たり前前の時代になるかもしれません。

あなたは小学生に勝てるでしょうか？

小学生レベルの英語を出題します。勝負してみてください。もちろん小学生レベルの問題ですから、それほど難しくはないはずです。でもこれに答えるのが難しいようであれば、来るべき英語が出来て当たり前前の時代を生き抜くことは難しいかもしれません。

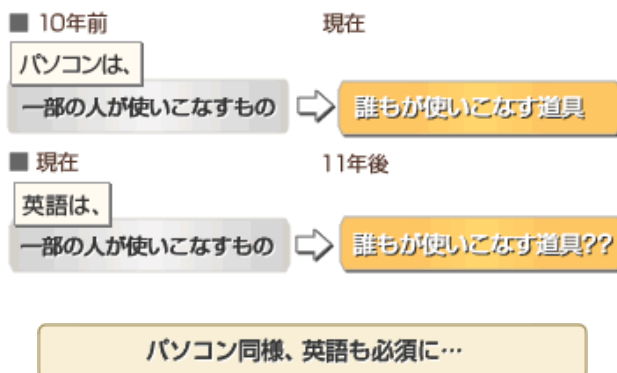
【問題】 次の日本語を英語で言ってみましょう。

- Q1 母) お兄ちゃんを起こして。
私) いいよ。
- Q2 母) セロリ食べちゃいなさい。
私) おなか一杯。
- Q3 私) 近くにコンビニはありますか？
- Q4 私) 天気はどう？
父) 曇りだよ。
- Q5 私) 転んでひざをすりむいちゃった！
友達) 痛い？
- Q6 私) この電車は東京に行きますか？
駅員) はい。
- Q7 私) どれくらいピアノのレッスンがありますか？
- Q8 私) 今日は何月何日？
友達) 12月5日だよ。
- Q9 私) 痛い！ ドアに頭をぶつけちゃった。
母) 大丈夫？ 見せてみて。
- Q10 私) 僕は週末、遅くに寝ます。僕はふだん、よく眠ります。

仮に今あなたが40歳ならば、11年後は51歳です。あなたが51歳のとき、より国際化が進み間違いなく英語が必須になるでしょう。あなたが51歳のときに入社してくる新入社員は、日常レベルの英語は十分に話せるはず。

オフィスにパソコンが普及しパソコン技能が必須になったのと同じ現象が、英語でも起こることでしょう。年功序列が崩れ、実力主義社会へと移行した今の時代に、英語が話せないままのあなたは、社内で十分な地位を保つことが出来るでしょうか？

忙しいあなたも、今から英語を始めないと、間に合わないかもしれません。



第2のポイントのまとめ

- ・有名教材は退屈な非日常英語で満載。だから途中で止めてしまう。
- ・語学留学で話す相手は講師のみ。海外にいただけで日本と何ら変わりが無い環境。
- ・教育理論を習熟した開発者が作成した教材でないと、学習効果は低い。
- ・小学校からの英語教育開始！英語が話せて当たり前の時代は、既に目と鼻の先。

ここまで一気にお読みいただいたあなたは、勉強熱心で努力家の方でしょう。内容も充分ご理解頂いたと思います。次から具体的な上達法の説明が始まります。ここでちょっと一休みしていただき、次章に備えましょう。

第3のポイント【上達方法】

これが成功する短期英語上達法だ！

短期間で英語のプロを育てる
言語学博士の練習法とは？

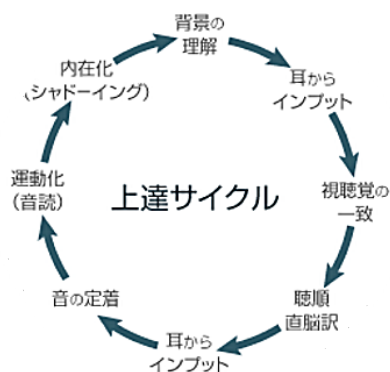
これまで、英語が話せない理由（第1のポイント）、そしてなぜ今までのやり方では話せなかったのか？（第2のポイント）とお話ししてきました。ここからいよいよ第3のポイント「英語を話す」ための効率的な練習法についてお話しします。

この練習法は全部で8つのステップに分かれています。8つのポイント沿って練習することで、忙しいビジネスパーソンのあなたでも、

- ① 短期間で
- ② 効率よく
- ③ 効果を実感できるように構成してあります。

以下がこれからお話しするステップのタイトルです。英語力を短期間で効率よく効果を実感しながら高めるための重要な8ステップです。

■ 英会話上達の8つのステップ



- 【ステップ-1】 自分の置かれた状況を理解し、話題の背景を理解する。
- 【ステップ-2】 従来の【目】からのインプットを【耳】からのインプットに変える。
- 【ステップ-3】 【耳】からインプットされた情報と【目】からインプットされた情報を合致させる。
- 【ステップ-4】 聴こえてきた順にその意味を英語のまま理解する。（※英語脳化）
- 【ステップ-5】 音声と意味を合致させる。
- 【ステップ-6】 音声を脳に焼き付ける。
- 【ステップ-7】 知的（記憶）神経を運動（記憶）神経に変える。（音読）
- 【ステップ-8】 音声を自分ものとして内在化させる。（シャドーイング）

それでは【ステップ-1】から詳しく見ていきましょう。

※「英語脳」は英会話上達研究会の登録商標です。無許可での使用は禁止しています。（商標4769026号）

■3-1：【ステップ-1】状況を理解し、話題の背景を理解する

15年も前のことですが、アメリカ出張の際の空き日程で、ロスのユニヴァーサルスタジオに行った時のことです。園内にあるアトラクションの順番待ちをしていた時に、一人の日本人女性と、ふとしたきっかけで話す機会がありました。その後、園内の行動を共にすることにしましたが、この女性、やたらとネイティヴ達に話しかけるのです。

- ・『アトラクションに乗るには、どれくらい待つのですか？』
- ・『今日の閉園時間は何時ですか？』

とにかく何でも尋ねます。大阪ではなく、ロスのユニヴァーサルスタジオで質問する彼女、さぞかし英語が上手かというところ…ほとんど話せません。中学2年生程度といったところではどうやって質問するかというと、こんな感じです。

- ・『Time! Time! How long?』
- ・『Time ! Time! Today finish?』

「それでは通じないよ！」との思いをよそに、驚くことにこれが全て通じてしまうのです。Time! Time! How long? では何のことかわかりません。しかしアトラクションを待つ長蛇の列の中にいる状況が、相手に意味を通じさせてしまうのです。Today finish? にしても、夕暮れの中を出口へ向かう人の流れが相手に答えを出させます。そんな彼女を見ていて改めて感じました。

状況推測がコミュニケーションの決め手だと。

人間は常識の範囲内で、話の展開を予測して会話をする能力が備わっています。

『昨日映画を観に行ったら、隣の席の人が急に…』 「急にどうしたのかな？居眠りしだしたのかな？それとも携帯で話しを始めたのかな？」と話の展開を推測します。当然その推測は常識の範囲内です。「急に何だろう？イスの上で逆立ちしたのかな？それともカバンからズワイガニでも取り出したのかな？」とは思いません。これでは常識の範囲外の推測です。このように【状況推測】は極めて重要なのです。

2001年に『バニラスカイ』という映画がヒットしました。スクリーンの中でキャメロン・ディアスとトム・クルーズが、こんな会話をしていました。電話をして欲しいキャメロンが、いつ電話をくれるのか尋ね、トムがそれに答えるシーンです。

- ・ (キャメロン) When ?
- ・ (トム) Soon !

たったこれだけです。一単語だけの会話です。でもこれ、ユニヴァーサルスタジオの彼女と大差ありません。双方が【状況】さえ理解していれば、会話は単語だけでもできるのです。そのために重要なのが、自分の置かれた状況を理解し、会話の背景を理解することです。まずは会話の背景を知る、それがステップ-1です。

■3-2：【ステップ-2】目からのインプットを耳からのインプットに変える

今の大人世代は、英語の勉強を始めた頃からずっと、英語を【目】から入力してきました。これを【耳】からの入力に変える大変重要な練習、それが【ステップ-2】です。実際にステップ2で英語の音声を聴き込みますが、その際にとっても大事なポイントがあります。

それは、『**目を使わずに聴くこと**』です。

テキストを見ながら聞くと、耳からの情報が不正確でも、目がそれを補ってしまいます。これでは音を目で確認する作業になってしまいます。耳で聞きながらも、目から英語をインプットしていることになります。そうすると耳は【聴く】(listen)ではなくて、【聞く】(hear)ことしか出来なくなってしまうのです。

あえて言葉を使い分けていますが【聴く】と【聞く】では大違いです。目を使わずに【聴く】と、なんとなく『ザワザワ』と聞こえてきた音が、意味を持った言葉として耳に入ってきます。【聞】こえなかった音が【聴】こえるように変わってくるのです。

人の話を集中して【聴く】時、自然と目を閉じることがありませんか？試しにテレビのニュースでオバマ大統領の演説を、目を閉じて【聴】いてみてください。初心者でも2つ3つ、もしかしたらそれ以上の単語を聴き取ることができるはずです。【耳】を主役にできれば、英語は意味を伴った音としてグングン頭に入って来るようになるのです。

■3-3：【ステップ-3】耳で聴いた情報と目で見たと情報を合致させる

中学校で習った助動詞に can（できる）があります。ちょっと頭の中で発音してみてください。「can」どのように発音しましたか？おそらく多くの方が『キャン』と読んだはずですが、このように私たちの頭の中では can=キャン という図式が完成されているのです。

では辞書で発音をチェックしてみましょう。辞書には [kən]もしくは[kǽn]と表記してあるはずですが、弱形だと[kn]です。強引にカタカナにすると can はクン またはカンに近い音になるのです。キャンと発音されることは、あまりありません。

You can stay.（ここにいていいよ）このような場合ネイティブは、ユーキャンステイではなく ユークンステイ に近い発音をします。私たちはcan = キャン と覚えていますから、ネイティブが ユークンステイ と発音した時点で、何を言っているのか理解できない状況に陥ります。これが【目】からのインプットの弊害です。

テキストを見ながら聞く限り、can=キャンと誤認識してしまいます。キャンと発音していないのに『can=キャン』として耳に入ってきてしまうのです。

【耳】は聴いたことがない[クン]を、【目】からの情報である[キャン]に置き換えてしまいます。こうして、いつまでたってもクンという音が認識できないままになるのです。これが英語を聴くことができない原因です。ではテキストを見ずに聴いてみましょう。テキストを見ずに音を【聴く】と、とたんに[クン]の【音】が耳に入ってきます。そこではじめて『今なんて言った

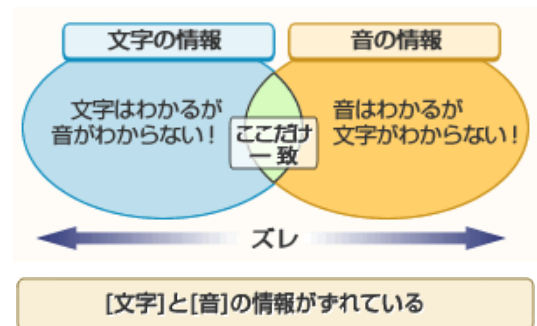
の?』と、英語を【音】として認識できるようになるのです。

テキストを見れば簡単な英文を、なぜ聴き取ることができないのか？
整理して言えば【音の情報と文字の情報がズレているから】に他なりません。

日常会話では、私たちは音で相手の意思を理解しなければなりません。あり得ないことですが、ネイティブとの会話で、あたかもDVDを見ているように声が字幕となって出てくれば can = キャン でも問題ありません。

しかし日常会話に字幕が無い以上、文字と音のズレを解消しなくては、いつまでたっても英語を【音声】として認識することはできないのです。

言葉とは【音声】です。【音声】を習得するためには【音声】を利用し、目を使わずに聴く！これが絶対に必要なのです。これを私たちは【視聴覚一致訓練】と呼んでいます。



サッカーという【スポーツ】をマスターしようとする際、なぜかルールブックを熱心に勉強する運動オンチがいたとします。『そんなことしないでボールを蹴ったほうが早く上達するよ』とあなたはアドバイスをするでしょう。

同様に英語という【音声】をマスターしようとする際、なぜか【文字】（テキスト）で勉強する英語オンチがいたとしたら…？『そんなことしないで【音】を聴いたほうが早く上達するよ！』そうアドバイスするはずですよ。

- ・【音声】の習得には【音声】を使う
- ・【音声】と【文字】のズレを一致させるため【文字】は見ない

この2点の実践が上達の早道です。そしてこれこそが、【聞く】から【聴く】の転換につながるのです。

- 3-4：【ステップ-4】聴こえてきた順に、意味を英語のまま理解する
- 【ステップ-5】音声と意味を合致させる。（英語脳化）
- 【ステップ-6】音声を脳に焼き付ける

「中学生時代にやってきた英語の勉強は、具体的にはどんなことですか？」
第1のポイントでお話ししたように、それは【教科書を読んで日本語に訳すこと】 = 【訳読】です。これこそがあなたにとって中学・高校時代の英語の勉強法であったはずです。そして訳読の方法は、「語尾から文頭に戻って読む」という、奇妙な方法であったはずです。



①ニューヨークの→ ②ホテルで→ ③何者かによって→ ④私の財布は→ ⑤盗られました

私たちは、この後ろから前へ訳す【訳読】を正しい英語の訳し方だと習い、それを信じ続けてきたのです。しかしここで疑問が生じます。「なぜわざわざ後ろから前に戻って訳す必要があるのか？」 「前から順に意味を理解して

いったほうが効率が良いのではないか？」

「なぜと言われても、そう習ったし、そもそも後ろから訳したほうがキレイな日本語になるからでしょう？」そんな反論も多いはずです。もちろん後ろから訳したほうが整った日本語になります。

しかし私達の目的は、きれいな日本語に直すことではありません。それは翻訳家の仕事です。私たちの目的は、ストレスなく英語のコミュニケーションを取ること、洋画を字幕なしで楽しむことです。整った日本語に直す必要など全くありません。意味さえ理解出来れば良いのです。効率悪く、わざわざ後ろから前に戻って訳す必要など全くないのです。

ではどうすればいいのでしょうか。それは話された順番に聴き、話された順番に理解することです。

言語学博士の御園和夫名誉教授は、ここまで言い切っています。

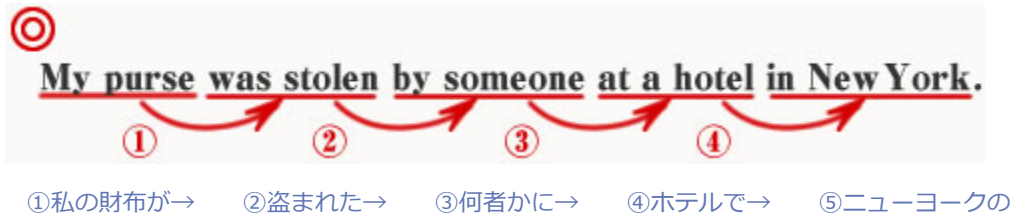
I love you.が『私はあなたのことを愛しています。』なんてハッキリ言って誤訳です。見つめ合い、今まさに抱擁しようというその時、『私はあなたのことを愛しています。』なんて悠長に言っている状況ではありません。『私が好きなのはあなたよ。』『俺が愛しているのは君だ！』が正解でしょう。

いかがですか？御園博士の訳は、語順どおりに文頭から訳していることがわかるとおもいます。どこもひっくり返して【訳読】していません。話された順番で理解しています。

I love you.

① → ② → ③ ①私が → ②好きなのは → ③あなたよ。

では先ほどの例をもう一度、今度は文頭から訳してみましよう。



多少ギクシャクしていますが、十分に理解できます。これが話された順に英語を理解する方法 = 【聴順直脳訳】です。この【聴順直脳訳】を繰り返し練習することで、英語の意味がどんどん頭に入ってくるようになります。

【聴順直脳訳】は、英語を「早く正確」に聴き取り、理解するために大変重要です。なぜなら音とは、発話された瞬間に消えてなくなるからです。話された順に理解しないと、次の瞬間に聴くことができなくなります。



in New York が聞こえる頃には、My purse 以下の音は消えています。暗記していない限り、文末から訳すことなど出来ないのです。

聴こえてきた順に理解する = 【聴順直脳訳】こそが「早く正確に」英語を聴き取るポイントです。

日本語モードの【訳読】を続ける限り、一生英語が話せるようになりません。

※【訳読】は文章を前提としています。

■3-5：【ステップ-7】知的（記憶）神経を運動（記憶）神経に変える 【ステップ-8】音声を自分ものとして内在化させる

イチロー選手も田中マー君も、野球理論だけではあれほどの実績をあげる野球選手として活躍はできません。理論の先にあるものは実践練習です。バットの素振り練習のように、理論を実践に置き換える必要があります。

英語の実践練習、それがステップ7とステップ8です。

聴き取った音を自分のものとして内在化させるために、発話練習をする必要があります。それが【音読】と【シャドーイング】です。【音読】は、テキストを見ながら実際に声に出して読んでみる練習です。【シャドーイング】はネイティブの音声を聴きながら、影のようにあとからついて発話する練習を言います。

一旦自転車の乗り方を覚えてしまえば、何年もブランクがあいても自転車に乗ることができます。そのとき頭の中で『自転車に乗る理論』など考えもしないはずで、にもかかわらず、過去の経験からたやすく自転車に乗れるはずで、これは『自転車の運転』という知的神経（＝操作方法とかバランスの取り方といった知識）が、運動神経（＝操作方法やバランスの取り方を体で覚えている）に変化した状態と言えます。

英語も同様、『英語を話す』という知的神経（＝語順や文法等）を運動神経（＝言葉の使い方を体に覚えさせる）に変化させることが重要です。その練習方法が【音読】そして【シャドーイング】なのです。



ちょっと休憩…

中学生から、ずっと教科書や参考書で英語を学んできた私たち。勉強には、必ず【文字】が必要と思込みがちです。でもコトバの習得には【文字】より【音】が重要！なぜならコトバの始まりは【文字】ではなく【音】だから。

世界には【文字】を持たない民族もたくさんいます。オーストラリアのアボリジニが有名ですね。一説では少数民族を含め世界の言語6500以上の中で、【文字】がある言語はわずか400 (!) 程度とも言われています。つまり文字を使わず音声だけでコミュニケーションを取っている民族が多数いるということです。

【文字】は後から人間が発明した【音】を記録する方法に過ぎません。

第3のポイントのまとめ

- ・状況推測機能がコミュニケーションの決め手。状況を理解し話題の先取をする。
- ・【耳】から入力された情報と【目】から入力された情報を合致させる。
- ・【教科書を読んで日本語に訳す】ことは英語の勉強ではない。
- ・英語を聴こえてきた順番に脳にインプットする！
- ・バットの素振り同様、英語も素振りをする事で知的神経を運動神経に変える。

第4のポイント【目標達成】

成功する発想法はこれだ！

これであなたは英語を自在に操れる！

■4-1：英語は学問ではない

- ・グアムのレストランで話しかけられ、笑ってごまかす観光客
- ・現地ガイドを通訳のように使い、自分からは何も言わないツアー客
- ・道を尋ねられ、行き先も聞かないうちに I can't speak English! と逃げる日本人

『聴き取れない…』『もし通じなかったら…』『文法を間違えたら恥ずかしい…』
気になってばかりで、つい無口になってしまう。あなたも思い当たる節があるかもしれませんが、ご安心下さい。多くの方が同じような経験があるものです。

何度もお伝えしてきましたが、英語はコミュニケーションのツールです。学問ではありません。コミュニケーションのツールである以上、最も大切なのは【意思の疎通】 = 相手に意思を伝え、相手の意思を受け取ること。これが全てです。これさえできれば、目的は達せられているはずです。

そうであれば、

- ・文法ミスを恐れ、頭で作文をしている間に発言のタイミングを失い意見を言えなかった。
- ・発音が悪いことを恐れ、貝のように口を閉ざしなるべく話さないようにする。

この方が、よほどコミュニケーション能力が低いことではないでしょうか？

単語を並べただけでもいい、カタカナ発音でも気にしない。それでも自分の意思を相手に伝えることさえできれば、コミュニケーションの第一歩を踏み出せたと私たちは考えます。

「できない」と言い訳をし、意思を伝えることを放棄するほうが、よほど恥ずかしいことだと思いませんか？間違えたって構わない。まずは自分の意志を言葉で伝えることが大切です。

■4-2：敵はネイティブではない！日本人だ！

「そうは言ってもなかなか話せなくて…」という反論もあるでしょう。話したくても、なかなか話せないという方も多いはずですが、でもそれは英語力だけの問題ではないはずですが。当会の会員から頂いたメールにこんな文章がありました。

「文法を間違っるのが怖い」「通じなくて困っている姿を見られたくない。」
だから英語を話す度胸がない。 → 「公衆の面前で恥をかきたくない！」

「話せないのではないのです。話す度胸がないのです。」

あなたはいかがでしょう？どのくらいの方が羞恥心に怯えているのか？
当会発行のメールマガジン誌上で読者アンケートを実施した結果があります。

- ・英語を話すとき羞恥心があり、周囲の目が気になる … 82%
- ・以前は周囲の目が気になったが、今は慣れた … 9%
- ・羞恥心はなく、周囲の目が気にならない … 9%

「以前は気になった」を含めると、実に91%が、羞恥心があると回答しています。しかも詳しく聞いてみると、羞恥心を感じる状況は、周囲に日本人がいる場合とのことなのです。つまり外国人に対し英語を話すことはそれほど恥ずかしくないが、周囲に日本人がいると、恥ずかしくて話せないということなのです。

どうして周囲の目が気になるのでしょうか？おそらく英語を学問として意識しすぎていることが理由でしょう。【英語＝学問】だから、ミスをしたら自分の知性を疑われてしまう、と真面目な人ほど思いこんでしまうようです。

私たちは『日本語ネイティブ』なのに、日本語を間違えてもさほど羞恥心は感じません。これは日本語を学問として意識していないからです。

「食べれない」に代表される「ら」抜き言葉は、三単現のSを忘れるのと同じ程度のミスかもしれません。コンビニ言葉「1,000円からのお預かりです。」といった表現は、日本語検定では致命的なミスでしょう。しかし日本語を学問と捉えない以上、そんなミスは恥ずかしく感じないのです。

英語も同様です。もちろん正しい英語を話すに越したことはないのですが、

多少間違ったところで、何も恥じる必要はないのです。ましてや私たちは「英語ネイティブ」ではないのですから。英語は【上手い下手】はあっても、誰かと比較し【勝った負けた】ということはないのです。

ビジネスマンのあなたは、英語をゴルフのように考えているかもしれません。“迷惑を掛けないレベルまで人知れず練習し、ある程度上達しなければコースに出ることはできない。英語も、恥をかかない程度上達しなければ、人前で話すことはできない。”

でもこんな考えをしていたら、あなたは一生英語を話すことなどできません。英語は『上手くなってから人前で話す』ものではなく、『人前で話すことで上手くなる』ものなのです。英語はゴルフでなく自動車教習所です。ブレーキやアクセル、交通ルールを学んだ後は、ハンドルを握り街に走り出さない限り運転は上手くなりません。英語の上達法を学んだ後は、自ら声を出さないかぎり上手くならないのです。

■4-3：あなたはすでに英語が話せる？

英国で弁護士になるとか、米国でMBAを取るといふなら話は別ですが、そうでなければ英語を話すことは、それほど高い目標ではありません。「完璧に話さなければいけない」「間違ったら笑われる」そんな思いに囚われて英語が口から出てこない。気持ちはわかりますが、これこそナンセンス以外の何ものでもありません。日本語だって平気で間違える私たちが、英語を間違えて当たり前なのですから。

『Time ! Time! Today finish?』 ユニヴァーサルスタジオで会った日本人女性のように、恥ずかしげも無くこの一言を言い放つ度胸があれば、あとは簡単です。毎日の練習の結果が、後から口をついて出てくるのはそんな遠い日のことではありません。

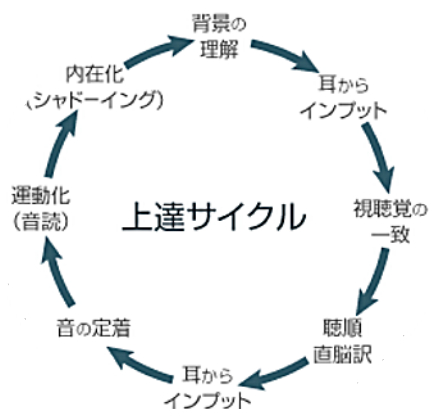
最後にもう一度だけ繰り返します。

「英語は言葉です。言葉はコミュニケーションの手段です。」
コミュニケーションは自分の【意思を伝え】相手の【意思を理解する】ことです。どちらが欠けてもコミュニケーションは成立しません。

そのためには、相手の【意思を理解する】耳を作ること。これは【視聴覚一致】と【聴順直脳訳】が有効です。（ステップ1～6）

そして自分の【意思を相手に伝える】こと。これには【音読】と【シャドーイング】（ステップ7～8）が必要です。そして間違いを気にしない、少しの度胸が有効です。

以上の4つの練習、1) 【視聴覚一致】 2) 【聴順直脳訳】 3) 【音読】 4) 【シャドーイング】を効率よく毎日の練習で繰り返すこと。そして音源は、日本人向けに加工されていないナチュラルスピードの音声を使い、繰り返しても飽きないような日常会話を選ぶこと。



これこそが効果的な英語上達法であり、忙しく真面目なビジネスパーソンのあなたが、

- ① 短期間で
- ② 効率よく
- ③ 効果を実感できる英語上達法なのです。

この方法を続けることで、あなたの英語力は飛躍的に高まっていきます。ぜひ、あなたの毎日の英語練習に取り入れることをお勧め致します。近い将来、あなたの英語力は確実にアップしているはずです。

第4のポイントのまとめ

- ・英語が話せない正体、それは英語を話す度胸がないこと。
- ・英語を話すことはそれほど高い次元の目標ではない。
- ・【視聴覚一致】【聴順直脳訳】【音読】【シャドーイング】練習が英語上達に効果的。

■今こそ英会話習得のチャンス

なぜ英語が話せないのか？その理由から始まり、なぜスクールや有名教材では英語が上達しないのか？をお話ししてきました。さらにどうしたら話せるようになるのか？その具体的練習方法を8つのステップに分けて解説し、最後は多くの日本人が直面しているメンタル面にも触れさせて頂きました。お役に立てましたでしょうか？

英語が出来て当り前の時代。進む国際化の中、仕事でも英語が必須となっています。海外出張や国際カンファレンスへの出席、国内展示会さえ外国人来訪者が増加しています。コンピテンシーを重視し人事考課には英語力が加わり、多くの企業でTOEICが昇格条件となっています。英語はもはや【趣味のお稽古】ではなく、ビジネスマンが生きていくための必須ツールです。

しかし忙しいビジネスパーソンには時間的制約があります。平日は残業や出張、付き合いで仕事終わりに一杯誘われることも多いことでしょう。残されたわずかな時間だけが自己啓発と自己価値向上に充てられるのです。そんな貴重な時間で、効果の見込めない学習法に取り組むことは、リスクこそあれメリットはありません。

そんな忙しいビジネスマンのあなただからこそ、

- ① 短期間で
- ② 効率よく
- ③ 効果を実感しながら英語を習得して欲しい。心からそう願っています。

わかりやすく執筆したつもりですが、それでも一部に専門的な内容も含まれていたこのレポートを、ここまでお読み頂いたあなたのことです。きっと人一倍努力家で真面目な方であるはずです。

だからこそ英語の出来ない悩みや上達の遅さを気にされていたことと思います。そのようなあなたなら、必ずこの効果的な練習法を実践することで、効率よく英語を習得されることでしょう。

このレポートをご覧頂いたあなたは、既に効果的な英語上達ノウハウを身につけています。言語学博士：御園教授をはじめとした、教授・講師陣推奨の上達法をご理解いただいているはずです。

あとは最初の一步を踏み出すだけです。

英語習得は方法さえ間違わなければ、それほど困難な目標ではありません。このレポートを読み、英語に対する思いをあらたにした今が、あなたにとって最大のチャンスであることは言うまでもありません。この効果的な英会話上達法を今すぐ実践し、今度こそ英語を身につけてください。

忙しいビジネスマンこそ、短期間で効率よく効果を実感しながら英語を習得して欲しい！

心からそう願って止みません。

上達のポイント【効果的に英会話を身に付けよう！】

短期間で効率よく英語を身に付ける！ <PR>

■英会話教材のご紹介

本書でお伝えした英会話学習法をそのまま教材化！

これなら英語が話せる！聴き取れる！「30日間英語脳育成プログラム」は、英語教育の権威である言語学博士が開発した、“聴けて話せる英語”を効率的に身につけることができる英会話教材です。

本書で解説した英語上達理論に基づいた8ステップに沿って30日間取り組めば、英語が聴けて話せるようになり、海外出張・TOEIC点数アップにも大変効果的です。

- ・短期集中！30日間で英語基礎力が身につきます！
- ・受講者アンケートで91%が「2週間で英語がわかった！」と回答！
- ・その効果の高さから、官公庁・大手企業・国立大学でも多数導入！
- ・言語学博士が開発し、大学教授陣が教材を製作した信頼と実績！
- ・「楽天市場」3部門で第1位／「amazon」英会話教材で第1位！

『英語が話せるようになりたい！』そんな方はぜひ以下のボタンを押して、本当に効果のある教材を確かめてみてください。無料の体験版の試聴やレベルチェックもあります。

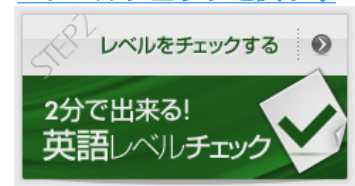
●教材を見る↓



●体験版を見る↓



●レベルチェックを試す↓



英会話上達研究会

- [英会話上達研究会ウェブサイト](#)
- [Facebookページ](#)
- [Twitter](#)
- [教材を見る](#)